

7月28日は世界肝炎デー

28日は世界肝炎デーです。ウイルス性肝炎は日本人に一番多い感染症で、放置しておくとう肝がんへ進行する可能性の高い病気です。しかし、早期発見・早期治療により高い治療効果が期待できるようになりました。肝炎治療の現状について、県内に二つある県肝疾患診療連携拠点病院のうち、順天堂大学医学部附属静岡病院の玄田拓哉・消化器内科先任准教授に聞きました。

＜企画・制作／静岡新聞社営業局＞

一生に一度は

肝炎検査を



ほとんどない自覚症状

— 肝炎はどのような病気ですか。

玄田 ウイルスやアルコールなど何らかの原因で肝臓に炎症が起こる病気です。国内の患者の約8割がウイルス性肝炎と考えられ、大半がB型とC型肝炎です。B型とC型は主に血液や体液から感染します。肝臓は「沈黙の臓器」と言われるように、感染しても自覚症状がほとんどありませんが、そのままにしておくと肝硬変や肝がんへ進行する可能性があります。がん対策の観点からも早期発見が重視されて

います。

— 治療上の課題はありますか。

玄田 B型やC型の患者は全国で300万〜370万人、約40人に1人と推測され、自覚せずにウイルス感染している人も多いと考えられます。感染の有無は血液検査で分か

ります。職場や市町の健康診断などで検査を受けられますが、結果に無関心だったり、自覚症状がないため陽性判定が出ても深刻に受け止めなかったりして、再検査に行かない人が多いことが問題です。特に働き盛りの40〜50代にその傾向が強く、この世代の早期発見は大きな課題です。陽性判定は「放置すれば肝がんになる可能性もある」という警告と認識して、陽性の場合には安易に判断せず、必ず医療機関で肝臓の再検査を受けてください。

早期発見・早期治療ができれば、もはや、肝がんは予防できる時代です。肝炎の血液検査は一生に一度でもいいので、受けていない人は自分や家族のためにもぜひ、検査を受けてほしいと思います。

早期発見・治療が鍵

— 治療の現状はいかがですか。

玄田 C型肝炎はインターフェロンのほか、新しい飲み薬が登場して現役世代は仕事を続けながら治療を続けられるようになるなど、患者さんの生活の質に配慮した治療が

肝炎患の相談は、
順天堂大学医学部附属静岡病院にある
「肝炎患相談支援
センター」へ。

順天堂大学 医学部附属 静岡病院

JUNTENDO UNIVERSITY
SHIZUOKA HOSPITAL

伊豆の国市長岡1129

☎055(948)5168

(受付時間10~16時、土日祝を除く)

FAX 055(948)5182